

今日のみ言葉 282 「心の目を開いてくださるように」

2018.08.10

神が、あなた方に英知と啓示の霊を与え、心の目を開いてくださるように。

(エペソ書1の17~18より)

I pray that the God may give you the Spirit of wisdom and revelation ...
I pray also that the eyes of your heart may be enlightened .

使徒の祈りと願いは、キリストを信じる人たちに、英知と啓示の霊一聖霊が与えられることであった。聖書で言われる英知（ソフィア sophia）とは、この世の知識や賢さと大きく異なる。

それは、何が本当に価値あるものなのか、言い換えれば、何が永遠の真理なのかに関する洞察力である。

この世の知識や賢さは、知的に優れているほど多く持つことができる。大学や独学で多くの書物に学び、各地を旅行、あるいはいろいろな体験によって多くの知識を持つことは、お金も重要で、かつ決断力、実行力といったものがあるほど多くの知識が得られる。

しかし、そうした知識は、心の真実や無差別的な愛、心の清さといったものとは結びつかない。

逆にいかにそうした知識や能力に恵まれていなくとも、心の真実や、清い心、愛といったものは与えられることが可能である。

いかに自分の健康や年齢が変わって病弱となり、孤独や不自由が増しても、また社会状況が変わろうとも、なお、変ることなき真実、真理がある。そういったものを知らせるのが、英知であり、啓示の霊（聖霊）である。

そして、そうした目には見えない神からの霊こそは、私たちの霊的な目、心の目を開いてくださる。言い換えると、霊的な目に、神の光が注がれる。

生まれつきの視力がいくらよくとも、霊的視力とは関係がないのは、すぐにわかる。

視力のない全盲の状態であっても、深い洞察力、真理との結びつきをしっかりと持ち続けている方々が存在してきた。

この世界にある数々の美しいもの一特別な絶景というものでなくとも、夕焼けや青く澄んだ空、また小さな溪流の静かな美しさ…等々、身近にいくらでもよきもの、美しいものがあり、それらは肉体の目で十分に見ることができる。また、人間の生まれつき与えられている他者を思いやる心や真実を愛する心等々、もわかる。

しかし、心の目が開けるほどに、特別に美しい花でなくとも、小さな葉一枚や道端の地味な野草の花、チョウやバッタなどの昆虫であっても雲の一つ二つを見ても、そこに深い無限の神の御手のわざを感じるようになる。

人間についても、表面的な容姿や若さ、健康美や力といったものがない人に対しても、その魂の美や、輝いていてもしび、またそこに宿されている神の力といった目には見えないよきものが見えてくる。この聖句はそうしたさまざまなことが心の目が開かれることによって見えてくることをはっきりと知った人のものであり、私たちにそうした神のわざが見えるように、そこから私たちに救ってくださった神の大いなる力、英知がいかに大いなるものであるかを知るように一との願いが込められている。



シャクナゲは徳島県のような暖地においては、山々を歩いていてもなかなか見られない貴重な花だった。

シャクナゲが特別に植栽されている山寺の山域にその花を見るために行ったこともあった。しかし、秋田駒ヶ岳では、白色や、この写真にあるように、薄い紅色をまとった花びらを持つものなど、登山道でも、数多く見られ、シャクナゲコースといわれる山道さえあるほど。

北国の寒い高山でなにゆえにこのような美しい花が多く咲くのか一としばしば不思議に思われた

ことだった。

東北や北海道の高山は、冬季には風雪の厳しい状況となるが、そこに驚くような美しく、清い雰囲気なたたえた花々が多く自生している。

人間が到底生きていくことのできない過酷な環境にあってなお、こうした美しい花々はたくましくはるかな歳月を生きてきた。

それと似たことは、人間の精神世界にも感じられる。

ただキリストを信じているだけで、過酷な迫害を受けた人たちが歴史において多数存在してきた。旧約聖書の預言者たち、そして過去二千年の世界の各地での迫害…そして世界の歴史に比類なき影響を与えてきたキリスト、そうした人たちもまた、過酷な状況のただなかにあつて、限りなく清い高さや深さを花のように実現し、この世に証ししてきたのだと思われた (文、写真ともT. YOSHIMURA)